浄国寺通信

第 40 号
令和6年 3月 8日
発　行
熊本市北区
高平 2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編 集 者
中山 義紹

令和六年 春季彼岸会法要三月二十四日(日)11時。本年も縮小して、開催致します。

彼岸法要は、昨年と同様の形での実施と致します。報道はされていませんが、コロナは　それほど減っていません。参詣者の人数は、50名に限らせて頂きます。お詣りを希望される方は、お寺まで申込みの電話を入れて下さい(096−344−7614　先着順)。尚、動画のネット配信は、後日ホームページにて配信する予定です。

あれほど、騒いでいたコロナです。二類から五類に移行しても、コロナ罹患者の数は、それほど減っていません。マスコミは、わざとの様に報道しようとしません。クラスターも発生してますし、うちの幼稚園も一定数　常に患者がいます。「何時になったら、前と同じ様な生活に戻れるんだ！そろそろ、手を打って前と同じようにしてしまおう、マスコミも政府も何も言わないし」という考え方もあります。逆に一部では、コロナワクチンの接種で、副作用のために超過死亡者の数が激増していると言われる方もいます。高齢者は、自己防衛のために何度も接種されています。その中で、ワクチンの副作用で免疫力が落ちているという話は無視できません。かと言って、大切なご先祖様に敬意を表する大切な法要を蔑ろ(ないがし)にもできません。私自身は、コロナワクチンには疑問も持っていますが、供養をしたいと考える檀家の皆様の気持ちを大切にしたいと考えました。一カ所に詰め込めば、コロナだけでなく、インフルエンザにかかる確率も高くなります。そこで、今回も参加人数も５０名に限定して、参加の連絡を頂いた上で彼岸の法要を開催しようと思っています。

お詣りされる場合は

この寺報を見て、参加しようと思われる方は、お電話ください。その際、名前は姓だけでなく全てお伝え下さい（同姓の方が結構いらっしゃいます）。一世帯あたりの参加人数も教えてください。先着順

供養だけはして欲しい方は

「行きたいけど、当日都合がつかない。体調が良くないし移動手段もない」という方は、同様にお電話ください。その際、できれば供養を希望されるご先祖様の　お名前を伝えて頂くと読込ができます。

供養料（お布施）はどうすれば

ご持参いただいても、郵送、振込でも構いません。法要当日に間に合わなくても、ご連絡戴ければ読み込んで供養を致します。法要には、近隣の方丈様方がコロナ騒動の前のように、十数名集まって法要を厳修します。しかし、コロナ前と同じ形に参詣者を受け入れると数も百名を超えますし、感染の可能性が高い状態になります。しかし、年に2回くらいは、お寺に足を運んで貰い、ご先祖様の供養をする気持ちを大切にしたいと考え、人数の制限を設けました。電話の手間はありますが、何卒、ご理解頂きます様お願いします。

お彼岸って何？

以前も書きましたが、「お彼岸」とは読みの通り「彼の岸＝向こう岸」です。どこの向こう側かと言えば、我々が今住んでいる「此の世界」の向こう岸です。そして、我々の住む世界は、娑婆（シャバ＝忍土と訳されます）と言い苦しみの世界です。そして、苦しみから解放された世界が涅槃（＝ニルヴァーナ）と言い、ここが向こう岸つまり彼岸です。お釈迦様の教えでは「一切衆生悉有仏性」全ての人が仏様なんだとと説いています。ここが、キリスト教などの一神教と大きく異なる所です。一神教では、人は神が作った物であり、人は決して神にはなれません。しかし、仏教は、人は最初から仏様であり、貪瞋癡が産み出す煩悩によって、自らの仏性に気付く事ができないだけです。しかし、肉体が生み出す様々な欲望や煩悩から解放されて、葬儀の場で、導師から仏様方に沢山の功徳を積んで生きてきたこの方を、どうか涅槃に連れて行ってください（これを「引導を渡す」と言います）とお願いして、故人は仏様として涅槃へ旅立たれたのです。つまり、故人＝ご先祖様は、仏になり（成仏）彼岸から見守って下さっています。その事に気づき、感謝の気持ちを持つ事　これが彼岸の法要です。

供養って何？

私は、個人的には「ご先祖様に喜んで貰う事」これが供養だと思っています。そして、自分と縁がある子孫（つまり　あなた）が幸せに生きている姿を故人に見て貰えれば、それが一番ご先祖様が喜んでくれる事だと思いますし、これが一番の供養だと思います。では、子孫が幸せに生きる姿とは何でしょう？お金持ちになる事？人より偉くなる事？それも一つの形かも知れません。しかし、何より自分が多くの人と共に　今この時を生きているんだと言う実感を持って過ごす事ではないでしょうか？自分の命を実感できる事ではないでしょうか？親子の縁に感謝する、他人との関係性（お陰）に感謝する、だからこそ、自分の命を大切にして今を生きる。そして、その自分を見守ってくれている先祖に対して感謝と敬意を持つ。この事こそが供養では無いでしょうか？

「家」の定義が益々小さくなっています。一緒に暮らす親子だけが、家族になってきました。しかし、一世代の親子だけで我々の命が存在している訳ではない事を忘れてはならないと思います。連綿と続く関係性の中で、今の私は命を貰って、生きているのです。

令和六年　浄国寺予定

四月二十九日（月）午後二時
　松本喜三郎　墓前祭
　喜三郎翁　追悼供養
　谷汲観音供養
七月三日（水）午前十一時
　施餓鬼会法要
　お盆壇信徒先祖総供養
十一月二日（土）午後五時
　「いま　心にZEN」
仏教講演会
併設企画「お寺でジャズ」七時
鈴木良雄（b）&The blend

定例木曜坐禅会

毎週木曜日　午後八時より
当山本堂にて
一炷（約四十分）坐禅をして、仏教や禅の著述に関する話（約二十分）。今はインド仏教の「釈迦の基本的認識」。
会費・会則一切なし、初めての方はご連絡下さい。

身辺雑記

松居　和という保育学者が「ママがいい！」という本を書いた。手短かに言えば、子ども受難の時代が世界規模で進んでいる事を見事に論証した本だ。グローバル・スタンダードの名の下に、少子化対策の衣をまとい、行政が家族関係の中に手を突っ込み、親子関係と子どもの成長引っかき回している。中身は、子どもに金をかけず（投資せず）財務省は国の金を増やし、政治家は人気を取ろうと小手先の政策で親子関係を混乱させている。そう言えば三十年前には「ママがいい！」と幼稚園から逃げ出す子どもが結構いた。しかし、今は園児達は結構クールに登園して親と離れる。まるで「ママは、（もう）いい＝いらない」と割り切った上で、友達と遊び始めているように見える事さえある。子どもは、汗と涙を流す事で人間になる。親は子どもに悩み、これも汗と涙を流して親になる。保育者は、決して保護者にはなれないし、代行は、できない。その代わりに客観的な立場に立ち、子どもの成長を助けるだけだ。保護者によっては、保育者に親の代行を期待している人もいるようだが、自分が親である事を放棄するならば、子どもは壊れる。そんな単純な事さえ理解できない親が増え始めているような気がする。だから、子ども受難の時代だ。欧米を始め、世界全体のパワーバランスも現在崩壊中だ。そんな幼児達に少しでも力強く生きる人間力を育む事が、私の最後のご奉公だと思っている。